

とつかのおもちゃ箱実行委員会 presents

みんなで作る みんなが主役の 年に一回 イベント!

# とつかのおもちゃ箱2011

"おみせ"でふれあい!

# だがしや楽校!

2011テーマ:「おみせケーション」!



日時：平成23年12月10日(土)  
10:00~15:00

場所：横浜市立川上小学校

年齢・性別・国籍・障がい・立場……

そんな「カベ」をとっばらい、今日からみんなオトモダチ!  
さあ、今日1日で、何人の新しいオトモダチができるかな?!

## <主催>とつかのおもちゃ箱実行委員会 2011

年齢・性別・障がい・国籍などのさまざまな「カベ」を取っ払い、みんな友達になろう!という想いで、2006年より毎年開催している「とつかのおもちゃ箱」。2009年から、実行委員会を立ち上げ、さまざまな団体や地域で活動をされている方などと一緒に企画・運営をしています。今後も随時協力者を募集していきながら、新しい企画を考えていきます! メール: t\_omocha@yahoo.co.jp

当実行委員会は、非営利の団体として活動しております

次年度以降の活動を続けていくための協賛金・募金を募集しております!

ご協力、よろしくお願いいたします!(綿菓子屋さん、みんなで茶・茶・茶~)の売上も募金となります)



## <だがしや楽校出店団体以外のご協力>

横浜市立川上小学校

とつか区民活動センター

横浜市東戸塚地域ケアプラザ

NPO法人 アクションポート横浜

NPO法人 教育支援協会

秋葉中学校支援ボランティア運営委員会

だがしや楽校コーディネーター 山口克夫様

そして、今日、出会えたみなさん



### おねがい

- 小さい子から、おじいちゃんおばあちゃんまで、いろいろな方が参加しています。みんなで楽しむために、**あたたかい心、やさしい目**をもちましょう。みんないっしょ!!
- 記録、今後の広報のため、**カメラ・ビデオによる撮影**を行います。撮影に対し、**ご都合が悪い方は、受付・スタッフまでお声かけください。**
- いっぱい**オトモダチ**を作ってくださいね。



みなさまに、ステキなクリスマスと新年がおとずれますように…



ここまでの情報・資料は、とつかのおもちゃ箱実行委員会（神田さんこと“ひよこトナカイ”さん）からの提供です。



### 《はじめに》

“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”が2011年12月10日（土曜日）、横浜市戸塚区にて開かれました。

大変な1年となった2011年も残り僅かです。

いろいろなことがありすぎた2011年でしたが、1年を締め括るのは、やっぱり“とつかのおもちゃ箱”です。私（山口・だがしや楽校コーディネーター）も“とつかのおもちゃ箱”に参加しないと1年を終わることができません。

この日は、私が住む山形県米沢市で、福島県から米沢市へ避難しているおかあさんたちが立ち上げた2つの子育て支援サークル・団体と米沢市避難者支援センター“おいで”が主催するクリスマス会が開かれました。

このクリスマス会では、私が“だがしや楽校”として提供した支援物資（おもちゃなど）をサンタクロースからのプレゼントとして参加した子どもたちに配られました。本当なら、この“ク

クリスマス会”に私も立ち会いたかったのですが、ここは“とつかのおもちゃ箱”を優先しました。それだけ“とつかのおもちゃ箱”は、私にとって思い入れのある“だがしや楽校”のひとつであります。

ちなみに、クリスマス会に立ち会った“おきたまラジオNPOセンター”スタッフからは「サンタクロースからのプレゼントのシーンが最も盛り上がった」という報告がありました。

というわけで、気合いを入れて横浜市戸塚区へ乗り込んだ私です。

ここで、“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”の様子をご紹介する前に、開催までの経緯をお伝えします。

なお、“とつかのおもちゃ箱”の歴史については、2009年及び2010年の報告でご紹介していますので、そちらを参照していただき、この報告では、今年（2011年）の“とつかのおもちゃ箱”についてお伝えします。

“とつかのおもちゃ箱”と言えば“ひよこトナカイ”さん（神田さん）です。

その“ひよこトナカイ”さんから“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”について、1回目の連絡・報告があったのは、10月でした。

その時の報告によりますと、今年は地域の方たちから“ひよこトナカイ”さんへ、開催のための協力申し出があり、開催に向けて動き出したそうです。そして、田中靖子さん（だがしや楽校仲間のひとりです。NPO法人教育支援協会）も含めて、「とつかのおもちゃ箱を地域のイベントにしていこう」「地域の人間で作っていこう」という方針で、地域の様々な人たちができることを出し合うことになったそうです。

“とつかのおもちゃ箱”については、私の目には、これまでも「地域のイベント」であり、「地域のつながり」を感じる素晴らしい“だがしや楽校”に映っていたのですが、今回はそれがさらに推し進められるのでしょうか。ますます楽しみになりました。

そんなわけで、胸躍らせながら“とつかのおもちゃ箱”を待ちわびることになりました。

12月に入って、“ひよこトナカイ”さんから内容についての詳細情報をいただきました。その情報を見た私は「えらいこっちゃ！」と思いました。なんと、おみせの数が約40もあるのです。これは過去最大数だそうです。私は「なんで、こんなにまた！」と思います。

これでは「すべてのおみせを見て回る（取材する）ことは無理かな」と思ってしまいます。でも、こうなったら開き直りで、楽しみながら見て回ろうと決意（というほどでもないか！）しました。

それにしても、これだけのおみせが出されるというのは、凄いことでもあります。戸塚での地域のつながりの輪がさらに広がっているのでしょうか。

“ひよこトナカイ”さんからは、横浜市立川上小学校にて行われた決起集会の写真も送っていただきました。決起集会には20人の参加があり、参加者それぞれが持ち寄った食べ物に舌鼓を打ちながら、情報交換をすることができたそうです。



ところで、今回の“とつかのおもちゃ箱”の会場は、今もご紹介した横浜市立川上小学校です。川上小学校と言えば、横浜に“だがしや楽校”を広めたひとりで、先にも登場した田中靖子さんが、当時チーフを務めていた“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”にて“だがしや楽校”を始めたところ。この“だがしや楽校”は“わくわくディ・ミニだがしや楽校”として、現在も毎月1回開かれているもので、横浜では長い歴史を誇る“だがしや楽校”です。

私（山口）も、田中靖子さんへのインタビューや“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”（以下“川上小はまっ子”と表現する場合があります）の取材などで何度か訪問している小学校ですが、お邪魔したのは“川上小はまっ子”がある体育館棟のみでしたので、前もって“ひよこトナカイ”さんには、川上小学校全体のレイアウトを送ってもらいました。

“ひよこトナカイ”さんからは「会場規模が小さいのに」という情報もあり、ちょっと気になりました。

私（山口）にとって、今回は3回目の“とつかのおもちゃ箱”になりますが、過去2回は品濃小学校での開催でした。その品濃小学校での開催に比べますと、今回の川上小学校は会場として使用できるスペースが狭いようですが、私からみますと、小学校で“だがしや楽校”を開くこと自体、凄いことですし、会場を提供された川上小学校、そして昨年までの品濃小学校には、あらためて敬意を表する次第です。

2日前には、“ひよこトナカイ”さんから当日渡される資料（出店マップとパンフレット）を事前にいただくことができました。この資料を見ているだけでお腹が一杯になりそうです。本当に凄い“だがしや楽校”になりそうです。

おみせの中には「午前中のみ」のように一部時間だけのおみせもあり、資料を見ながら、一応見て回る順番を想定しました。実際、どうなるかは、わかりませんが・・・。



2011年12月10日（土曜日）当日を迎えました。

天気は快晴です。朝はちょっと寒いですが、絶好の“だがしや楽校”日和です。野外でのおみせもありましたので、この天気は本当に良かったです。

JR 東戸塚駅を降りて、川上小学校へ向かいます。

川上小学校は JR 東戸塚駅から西南西へ1km あまりのところ。東戸塚駅の西口から向かいますと、実際の移動距離も1km あまりで行くことができます。でも、東戸塚駅から川上小学校へ歩いて向かうのは、今回が初めてです。

とつか区民活動センターやエフエム戸塚が入っている“モレラ東戸塚”（東戸塚駅・西口）前を通り、両側を緑に囲まれたところを下り、横浜新道という有料道路の脇を通りますと、川上小学校が近づいてきます。ただし、川上小学校の正門へ行くには、少し迂回することになります。

午前9時頃、川上小学校に着きました。とにかくおみせの数が多いため、少しでも早く着いて、下見（現場確認）しようと思ったわけです。

昇降口前に着きますと、まだ“ひよこトナカイ”さんに変身していない神田さんから声をかけられます。田中靖子さんもいます。

昇降口を入ったところにある受付には、おみせを出す人たちが次々に入って来られ、受付を済ませ、それぞれの出店場所に向かいます。

私も一通り会場を巡ります。

“だがしやしなの”では1年ぶりの再開にしばらく談義します。私のことを憶えていただき、感激です。

田中靖子さんは、お手伝いに来られたスタッフの人たちを紹介しています。“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”は、多くの人たちの協力で開催されていることがわかります。

ここで一端外に出て、川上小学校の校舎をご紹介します。



写真左が校舎で、写真右が体育館棟です。体育館は2階で1階は調理室などがあります。はまっ子ふれあいスクールは、体育館棟に開設されています。川上小学校の児童数は360人（2011年5月現在）です。

ちなみに、1年前の“とつかのおもちゃ箱”の会場だった品濃小学校（川上小学校から東へ1kmあまりに位置します）の児童数は569名（2011年5月現在）です。

写真左では、屋外のおみせの準備が進んでいます。

さあ、それでは“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”の模様をご紹介します。

今回の報告では、私（山口）が見て回った（取材した）順番におみせを紹介します。すべてのおみせを見て回る事ができたのかも注目していただければ・・・と思います。

今回もおみせをひとつずつご紹介していきますが、おみせの数が多いので、今回初めて出店されたおみせを重点にしながら見て回ったつもりですが、どうなることやら・・・。

この報告の最後には、いつものように“振り返り”を行いますが、この“振り返り”では“とつかのおもちゃ箱”全体を通して感じたことを中心にご紹介します。

それで、それぞれのおみせで感じたこと、また、おみせの人たちから出された感想などの振り返り（当日の振り返りの会で出されたことや後日“ひよこトナカイ”さんからいただいた資料を参考にしています）で感じたことは、個々のおみせ紹介の中で申し上げることにします。

2011年12月10日（土曜日）横浜市の天気：晴れ

### 【とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校】

午前10時、いよいよ“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”のスタートです。

と言っても、1年前と違って、今回はなんとなくのスタートです。それでも、体育館には“ひよこトナカイ”さん（写真）が登場し、スタートを告げました。“ひよこトナカイ”さんによりますと「受付が大変なことになっている」とのこと。早速、校舎側の1階、昇降口に行ってみました。



### ●受付

皆さんのお話を総合しますと、開始5分前の午前9時55分頃になると、受付には長蛇の列ができ、子どもたちが“とつかのおもちゃ箱”を待ちわびていたことが伝わってきたそうです。



受付では、とつか区民活動センターにボランティアスタッフとして登録されている方など、地域の人たちが対応していました。

### ●はろ～わ～く

今回の“とつかのおもちゃ箱”でも受付の脇に“はろ～わ～く”が設けられました。

おみせでお手伝いしますと、エコマネー“とふれ”がもらえます。“とふれ”では、各おみせにて、遊んだり、買い物をしたり、美味しいモノをいただくことができます。

右の写真は、各おみせから出された“お手伝いカード”（求人票）です。





子どもたちは、“お手伝いカード”から、やりたい仕事を選びます。(写真左)  
そして、“お手伝いカード”の裏に自分の名前を書きます。(写真右)  
それぞれのおみせで、“お手伝いカード”を首にかけて20分間お仕事したら、“はろ〜わ〜く”に戻り、エコマネー“とふれ”と交換する・・・というシステムです。

それでは、各おみせをご紹介します。

なお、《 》の中の数字は、私（山口）が見て回った順番を示しているもので、出店数をチェックするためであり、特に意味のある数字ではありません。

もう一度、体育館に戻りましょう。1年前に続いて、オープニングを飾って、あのパフォーマンスが行われるからです。

#### ▼《1》発表のおみせ：ピーチーズ バトンクラブ：ピーチーズ バトンクラブ

1年前に続いて、発表のおみせのオープニングは“ピーチーズ バトンクラブ”の発表です。今回も可愛い女の子さんたちのパフォーマンスから、おじさん（山口）は、今年も最後まで“とつかのおもちゃ箱”を元気に取材できるパワーをいただくことができました。



後方でパフォーマンスされる場面が多かったので、できれば、もう少し振り付けを工夫されると、もっと良かったかな・・・という印象を持ちました。

ピーチーズ バトンクラブは、平成11年、平戸小学校（JR東戸塚駅の南東約900メートル）の児童によって結成され、活動を続けています。

“とつかのおもちゃ箱”のような大勢の子どもたちの前でパフォーマンスする機会が少ないそ

うです。それで、パフォーマンスする子どもたちにとっては、知っている子がまわりに誰もいないため、なかなか踊ってくれる子が見つからなかったそうです。また、観ているお客さん側もみんな照れてしまったという話が、後日伝わってきました。



だから、後方でのパフォーマンスが多かったのでしょうか。

でも、パフォーマンスした子どもたちにとっては良い経験になったと私（山口）は思いましたし、「子どもたちが知らない子たちを誘い込むという体験ができたことは良かったです」という感想も伝わってきました。

## ▼《2》学童あそびばランド：東戸塚学童クラブ 体育館の入口付近に開いたおみせです。



“とつかのおもちゃ箱”は初参加ですが、私（山口）も訪問したことがある東戸塚学童クラブ（JR 東戸塚駅の南西約 700 メートル）は、NPO 法人教育支援協会が運営しています。こじんまりとした学童クラブですが、子どもたちは和気あいあい活動しています。

おみせでは、ベーゴマ、輪投げ、それに自分たちで作ったというパチンコを出しました。

特にベーゴマについては、とつか区民活動センターから紹介により、学童の子どもたちだけでなく、“とつかのおもちゃ箱”に遊びに来てくれた子どもたちへ、昔の遊びを伝承していただくために、地域のおじさんたちに参加してもらいました。





おみせでは、おじさんたちから、ベーゴマと普通のコマの遊び方を教えてもらいました。

おみせスタッフからの感想では「子ども向けにベーゴマの体験コーナーを出しましたが、昔を懐かしんだおじいさんおばあさんが思いのほか集まり、熱中してベーゴマをまわしていました」とのこと。でも、これは「世代を越えたコミュニケーション」でもある“だがしや楽校”ならではの風景で、とても良いことだと思います。



おみせでは、輪投げも盛り上がっていました。



また、おみせスタッフからは「ダンス等のステージの音が大きすぎた」という感想が寄せられました。これは、体育館では発表のおみせと同じ場所だったため、会場の事情を考えると、なかなか難しいところです。ただ、今回は、発表のおみせは2つだけでした。ですので、発表中は思い切って『ただいまお休み中』にすることもできます。こういう遊び心で“だがしや楽校”を楽しんでいただきたいと思います。

それから「出店が多かったためか、どこにどんなお店があるのかわかりづらかった」という感想も寄せられました。これについては、今回はやむを得ないと思います。それだけ、多くのおみせ（多くの戸塚の人たち）が参加されたのです。

さらに「“とぷれ”と“カバゴン”のエコマネーを両替できるシステムがあればよかった」という意見も寄せられました。これについては、現実的に可能かはわかりませんが、検討しても良いのではないかと思います。

おみせスタッフからは「思いがけず近所の知り合いと会場内で出会いました。さまざまな人が参加しているという意味で、戸塚の地域に密着していきっている印象を受けました」というコメントもありました。まさにその通りだと思います。“だがしや楽校”とは、いつも会っているはずの人との出会いの場でもあります。

東戸塚学童クラブにも、地域に密着した活動を進めていただきたいと思います。

ここで体育館を離れて、校舎の2階にある図書室に行ってみましょう。どうやらここは、お金のニオイがプンプンしています。

▼《3》 お金マイスターの楽しい教室：プロミス株式会社横浜お客様サービスプラザ

お金の歴史をテーマに、物々交換を経験しながら、お金の大切さや、お金の役割について、楽しくカードゲームをしながら勉強していくというおみせです。



“とつかのおもちゃ箱”に参加するきっかけについてインタビューしますと、「川上小学校はまっ子ふれあいスクール”で、『お金マイスターになろう』というゲームをすでに4回やらせていただいております、そのつながりで参加しました」とのこと。また、子どもの反応について聞いてみたところ、「ゲームは楽しいので、知らない人同士でも、楽しく仲良く勉強してくれていました」という答えが返ってきました。

終わった後の振り返りの会では「延べ120名の子どもたちが参加しました。中には『おもしろい』ということで、何度も参加したお子さんもいました」という報告がありました。

思っていた以上に子どもたちが楽しそうに取り組んでいて、私（山口）もビックリしました。

▼《4》 おこづかい帳練習コーナー：NPO法人日本FP普及協議会

ここでは、子どもたちに小遣い帳のつけ方を練習してもらおうおみせです。



先生は、ライフパートナーオフィス代表の石村衛さん。早速、インタビューしてみましよう。子どもたちには、実際に各おみせでもらった“とぷれ”と、各おみせで使った“とぷれ”を記

録し、それを練習用の小遣い帳につけます。そして、最後に、実際に残っている“とぷれ”と小遣い帳での“とぷれ”の残高を検算します。それで記録をつけることが出来たかを確認します。

NPO法人日本FP普及協議会は、一般家庭からの、それぞれの人生設計に基づいたお金のプランについての相談に対応する仕事を行っています。ファイナンシャルプランナーと言います。

石村さんは、日本FP普及協議会の理事でもあり、ライフパートナーオフィスでも、同じような仕事をしています。

そのライフパートナーオフィスは、川上小学校から約500メートルという近さです。それで、石村さんが先生役になったものと思われませんが、この日はプロミスさんの紹介で、日本FP普及協議会としての参加です。

石村さんは「お金は上手に使う道具です。しかし、お金が目的化しやすいです。そうならないように、気持ちがそちらへいけないように、ということで、おこづかい帳練習を考えました。きょうはイベントの中なので、時間も限られるため、ここで体験して、興味を持った人に参加していただきたく、1月には、バージョンアップした“おこづかい楽校”を開きます。“楽校”は“だがしや楽校”からいただきました。お金があれば何でも出来るというのは大間違いであることを子どもたちに伝えます。お金は交換するための道具でしかない。それを小学生の内から気付いてもらえば良いかなと思っています。さらに、時間があれば、お金を貯める意味を伝えることもできます。お金とは、あれば良い・貯めれば良いというものではない、ことを伝えていきます」と語ってくださいました。

“とぷれ”というエコマネーを使う“とつかのおもちゃ箱”にはピッタリなおみせであると感じました。

駄菓子屋は商売ですので、お金のやり取りがあります。子どもにとって駄菓子屋で買い物をすることは、お金を勘定するという体験であります。算数の勉強にもなります。しかし、駄菓子屋は、商売であっても、お金（儲け）が目的ではありません。

このことを理解できれば、このおみせの持つ意味の大切さがわかります。

石村さんの話です。

プロミスさんからの紹介で“とつかのおもちゃ箱”へ参加することになりました。いつもなら1時間ほどかけて行うのですが、この日はギュッと凝縮し、“とぷれ”も活用した20分バージョンで行いました。それでも、1日中ほとんど途切れることはありませんでした。

お金臭いおみせを図書室に配置したのは“ひよこトナカイ”さんの思惑ですが、これで良かったと思います。その図書室には、もうひとつ、おみせがありました。

## ▼《5》てたぷ・おしゃべりカフェ・・・哲学対話プロジェクト

子どもたちと哲学対話を楽しむというおみせです。

“おしゃべりカフェ”は午前11時からと、午後2時からの2回行われましたが、私が最初に訪れた時は午前11時前でしたので、始まる前に、おみせスタッフのひとり・寺田さんにインタビューしてみました。以下、寺田さんの話です。

哲学対話プロジェクトは、子どもも含めた市民の間に哲学対話を広げようという市民グループです。大人のためには“哲学カフェ”を行っていき、子どものためには“おしゃべりカフェ”を開いています。これは、普段考えないことをしっかり考えてみようという企画です。

きょうは“おいしいもの”について考えます。ゲームのようなことをしながら考えます。できるだけ子どもが“おいしいもの”について自分たちの言葉で話して、自分たちで考えて、ほかの人の話をちゃんと理解しながら、考えを創っていくことをやります。

“川上小はまっ子”のイベントのひとつとして“おしゃべりカフェ”をやらせてもらいました。そうしたら、20人ぐらい子どもたちが来て、とても楽しい対話ができ、なかなかおもしろかったの、きょうの“とつかのおもちや箱”で、もう1回やらせてもらおうと思いました。

ここまで寺田さんに話してもらったところで、私（山口）は「山形から来た者です」と申し上げますと、寺田さん「ひょっとして、上映会にも来てくださった“だがしや楽校”の方では・・・」と私のことを思い出してくださいました。

上映会とは、今年（2011年）6月に開催された映画“ちいさな哲学者たち”試写会のことで、この時は田中靖子さん、中曽根さん（杉並区教育委員会・西東京市）ら“だがしや楽校”関係者が集結しました。

というわけで、すでに哲学対話プロジェクトのことも承知していた私ですが、事前に“ひよこトナカイ”さんから送られてきた出店者一覧を見てビックリしました。

寺田さんの話の続きです。

“川上小はまっ子”で“おしゃべりカフェ”を開いた時には、あらかじめ子どもたちから申し込んでもらってましたので、20人くらい来ることはわかっていました。しかし、今回はおまつりですので、事前申し込みということはせず、フラッと来てくれる人を待つことにしました。それで、実際にどれだけの子どもたちが来るのかはわかりませんが、とりあえず出店してみました。

上映会や“哲学カフェ・おしゃべりカフェ”は最近始めたことです。

全国的には、子どものための哲学はありますが、それもここ10年のことです。だから、このような形でやり始めたのは、ごく最近のことです。

哲学に興味を持っている人はいると思います。それを広めていけたら・・・と思っています。

横浜では、ほかの区でも、小学校の先生が哲学に興味を示してくださいましたので、そことも連携してやりたいと思っています。

さて、ほかのおみせを見て回っている間に、午前の“おしゃべりカフェ”が始まっていました。テーマは「おいしいもの」ゲーム。進行は私のインタビューに応じてくださった寺田俊郎さんです。参加者は約10名です。でも子どもは2名です。参加者を見ますと、田中靖子さんに加えて、“だがしや楽校”仲間である川上さん（東京・杉並区教育委員会）の顔も見えます。



具体的には、ある食べ物について「おいしい」「おいしくない」「どちらでもない」に分類する

というゲームです。例えば、チョコレート。「甘くておいしい」という人もいれば「好きではないのでおいしくない」という人もいて、参加者の意見を総合すると「どちらでもない」となってしまうものがほとんどだったそうです。私からすると、別に意見を総合して結果を出す必要はないと思うのですが・・・。

午後の“おしゃべりカフェ”も覗きました。午後は土屋陽介さんの進行で、アーノルド・ロベールの絵本“ふたりはいつも”から“おちば”を題材に『幸せ』について話し合いました。



参加者は（大人の）10名あまり。『幸せ』については、それぞれ人によって感じ方が異なることは、私も何度か学んだことで、この時も「幸せと感じた時が幸せ」という人もいれば、「結果まで含めて幸せが決まる」という人もいたそうです。

終わった後、寺田さんからは、「“おしゃべりカフェ”という子どもを対象としたワークショップを実施しましたが、子どもはほとんど集まらず、大人のためのワークショップとなってしまいました。集客面(子どもにとって魅力的なイベントの企画と広報)での努力が足りなかったことを実感しました」という感想が寄せられました。

“とつかのおもちゃ箱”は、小学校を会場にしているように、子どもたちのための集い・おまつりと言えますが、戸塚という地域のつながりを築くという意味もあると私（山口）は見ていますので、大人たちが楽しむおみせがあったことで、さらに地域の広がりを感じました。寺田さんからは「(当初の思惑とは異なって)大人カフェになりましたが、つながりが出来て良かったです」という感想もありましたが、私もまったく同感です。

もし、“おしゃべりカフェ”に子どもたちを集客したいなら、まずは子どもたちの世界に飛び込むことです。

図書室から視聴覚室の前を通り、南に進んでみましょう。会議室では、おばけやしきが始まっています。

#### ▼《6》おばけやしき：川上小学校はまっ子 とつかのおもちゃ箱プロデュースチーム

とつかのおもちゃ箱実行委員会・副代表の比護さん。今年はこちらで登場です。

今回の“とつかのおもちゃ箱”の会場となった川上小学校の子どもたちにもおみせを出してもらおうと、比護さんが“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”にて企画したのが“とつかのおもちゃ箱プロデュース大作戦”です。

大作戦では、おみせは出したいが、何をしたら良いかわからないという子どもたちのために、チームをつくり、子どもたちみんなでお話し合っ、おみせを出すことにしました。その話し合い

の時に、ひとりの子どもが「おばけやしきをやりたい」と言ったら、ほかの子も「賛成」となりました。

比護さんの案内で、私もおばけやしきに入りました。



次々に子どもたちがおばけやしきに入っていきます。平気な子もいれば、泣き出すお子さんもいました。



というわけで、準備は大変だったようですが、おばけやしきとしては大成功！  
快晴で外は猛烈に明るいので、真っ暗なおばけやしきは、一層際立っていました。  
(写真では明るく写っていますが、これは高感度での画面編集によるもので、実際にはほとんど真っ暗です)

比護さんが登場しましたので、安藤さんをご紹介しておきます。

現在“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”のチーフである安藤さん。振り返りの会では「今年は楽しませていただきました」と話されていましたが、事実上の実行責任者として、また川上小学校とのパイプ役として、相当苦労されたのではないかと思います。終了後、学校側へ鍵を返したのも、安藤さんでした。

今回は、比護さん・安藤さんの写真はありますが、ここでご紹介しておきます。

続いて、視聴覚室を覗いてみましょう。視聴覚室は図書室の隣りです。

▼ 《7》 みんなで遊ぼう！！ デザイン自由空間 フレンド工房：フレンド工房 白岩秀勝さん



フレンド工房を主宰する白岩さん（保土ヶ谷区）にインタビューしてみましょう。

横浜にはいろいろな市民活動・ボランティア組織があり、ネットワークができています。私（白岩さん）は“フレンド工房”で（市民活動支援センターやボランティアセンターに）登録しています。人にはそれぞれ趣味があります。その自分の持っている趣味（趣味はなんでも良いんです）を公表しながら、人とのつながり・コミュニケーションを図る目的で、ボランティア活動しています。私の趣味とは、ハガキでアート、写真入りロケットキーホルダーなどです。

8月には、河口湖自然学校にて、被災者の子どもたち200人に、写真入りロケットキーホルダーを無償で作ってきました。



“だがしや楽校”を理解されている人なら、おわかりでしょう。白岩さんの活動こそ、まさに“だがしや楽校”です。しかも、ボランティア活動といっても無償ではなく、この日も例えば、ハガキでアートは200円、写真入りロケットキーホルダーは300円などとしていました。このようにすることで、活動は続きます。



この日は「創造力と人のつながり・コミュニケーションを大切にする活動として、みんなでデザインして遊ぼうというおみせ」を出されました。内容は、パステルによるハガキでアート、写真入りロケットキーホルダーのほかに、描いて創る！お名前シールなどです。スタッフは旭区の方々です。

さすがは白岩さん。“とつかのおもちゃ箱”について「たくさんのお子どもたちが、大人と一緒に店を出し、社会の勉強になり、人のコミュニケーションがとれ、大人も子どもも、1つのことに集中して参加できました」と鋭い感想を寄せています。

▼《8》ルルとララの手作り屋さん：佐々木家  
昨年が続いての参加です。



マドレーヌ、エコクラフト（カゴを編んできました）、シュシュ、かみゴム、エコクラフトキーホルダーなどを販売しています。



さらに、今年初めて出したスイートポテトは、なんと午前11時前には完売しました・・・というわけで、写真でご紹介できないのが残念です。大盛況です。

手作りが大好きというおかあさん、工作が大好きという3人のお子さん、それにお買い物大好きというパパという5人家族のおみせです。

「主催のみなさま、お客様が大変良く接していただき、感動しました」という感想を寄せてくださいました。



午前11時、佐々木さんへの取材が終わったところで、私を見つけて「アラ！」と声をかけたのは、とつか区民活動センターのtanabeさん。久しぶりの再会です。午前11時開店の“愛・あむ・クラブ”のおみせへのサポートのようです。

今回の“とつかのおもちゃ箱”では“とつか区民活動センター”も全面的に協力しており、先にご紹介したベーゴマの人たちのほかに、このあとご紹介する紙ひこうき名人もセンターの紹介です。

#### ▼《9》愛・あむ・クラブ：愛・あむ・クラブ

環境に優しいアクリル毛糸製のエコたわしを紹介し販売するおみせです。これは、洗剤不要で手にも優しいたわしです。

“愛・あむ・クラブ”は、参加者同士で、教え合ったり、おしゃべりし合ったりすることで、コミュニケーションを深めているそうです。

終わった後、「小学生たちが積極的にお手伝いに来てくれたので嬉しかったです。本当に素晴らしい小学生たちです」という感想を寄せられました。

一方で「靴をはきかえなければいけないので、足の不自由な友人が来られませんでした。改善してください」という意見も寄せられました。

この意見について私（山口）からは「“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”とは、地域のみんなでつくる集いであり、おまつりであり、“だがしや楽校”です。つまり、おみせを出す人も、そこに遊びに来られた人も、主催者も、そこに参加した人も、立場を越えて、みんなでつくるのが“だがしや楽校”です。だから、「改善してください」ではありません。何か問題や課題があったら、参加されたみんなで考えることです。



#### ▼《10》おはりこくらぶ：おはりこくらぶ



おみせ番をしているお子さんたちにインタビューしてみましよう。

手作りのピンクッションやいろんなデザインのマスクを売っています。

(ポスターの写真に写っている) おはりこくらぶのみんなで作りました。



おはりこくらぶは、川上小学校（はまっ子）の3・4年生が多いです。男の子は1人です。

「やりたい」（と思った）人でおみせを作りました。

（おはりこくらぶに入ったのは）お裁縫が楽しいことと、お友だちがいっぱいできるかな～と思ったからです。きょうも楽しいです。



私（山口）のインタビューに、子どもたちは、

ハッキリと、そして楽しそうに答えてくださいました。

振り返りの会では、子どもたちが自ら「やりたい」ということになって出したおみせだったことが、あらためて紹介されました。お客さんからの「マスクはどうやって作ったの？」と聞かれた時にも子どもたちは楽しそうに答えていたようで、コミュニケーションもきちんとできました。私（山口）も「素敵な子どもたち」と感じました。

さらに後日には「子どもにとって、初めてのことで心配をしていましたが、上手に呼び込みをしており、がんばったと思います。お客さんともコミュニケーションしていて、いい経験ができました」という保護者からの感想が寄せられました。

### ▼《11》みんなで茶・茶・茶～♪：川上小学校・はまっ子ふれあいスクール

“とつかのおもちや箱”では毎度お馴染みのおみせです。今年はなんでもテーマがあるので、そのテーマは“コミセケーション”。

甘党の私（山口）には、美味しいコーヒーに、これまた美味しいケーキが付いてきたことが最高に嬉しかったです。ハイ！



▼ 《12》 BGM-P : SOS (サザン・オールド・スターズ)

視聴覚室では、美しいピアノの音色が響き渡っています。ピアノの生演奏とは・・・なんてぜひいたくな今回の“とつかのおもちゃ箱”なのでしょう。



ピアノを弾いている女性の方は、川上小学校“はまっ子”でピアノを弾いているようで、主にポピュラーソングを弾いています。この日の“とつかのおもちゃ箱”では男性の方（ピアノマンさんと称しましょう：主にジャズを演奏）と交代でピアノを弾いています。ピアノマンさんは、子どもたちにジャズ音楽にも触れてもらいたいということで、“川上小はまっ子”の“わくわくディ”（ミニだがしや楽校）に来てもらっている人です。



ここで、ピアノマンさんと、しばらく談義しました。

ピアノマンさんは、サザン・オールド・スターズというグループで、毎月ケアハウスにて演奏しています。グループは、ピアノのほかに、ボーカル・ギター（スティールギター、ウクレレ）、ベースで構成しています。ピアノマンさんが“とつかのおもちゃ箱”にメンバーを誘ったものの残念ながらみなさん所用で参加できず、ピアノマンさんだけの参加となりました。



ピアノマンさんは、山形のことに興味を持ってくださったこともあり、“みんなで茶・茶・茶～♪”特製のコーヒーをいただきながら、そしてピアノ演奏を聴きながら、取材というより、しばらくのんびりと談義して過ごしました。

※追加情報：“ひよこトナカイ”さんによりますと、ピアノマンさんは松崎さんという方で、ご紹介した女性の方は、おみせの方（サザン・オールド・スターズ）ではなく、松崎さんの休憩中にアドリブで演奏していたとのことでした。

ここまで視聴覚室のおみせをご紹介しましたが、ここで視聴覚室全体の写真をご紹介します。奥が“フレンド工房”で、左側に“愛・あむ・クラブ”“ルルとララの手作り屋さん”“おはりこクラブ”“みんなで茶・茶・茶～♪”のおみせが並んでいます。“BGM-P”は撮影方向の後ろ側です。



▼ 《13》 エフエム戸塚 川上サテライトスタジオ：株式会社エフエム戸塚

エフエム戸塚のおみせも“とつかのおもちゃ箱”ではすっかりお馴染みになりました。これが縁で私（山口）もエフエム戸塚の番組に出演したことがあります。

今年もエフエム戸塚のおみせはラジオDJ体験です。体験を収録したCDを持ち帰ることができるおみせでもありました。



ところで、去年は体育館でおみせを開いたものの、発表のおみせの音響がDJの声にかぶさり実際の放送には使えませんでした。そのためでしょうか、今回は視聴覚室の隣りにあるスタジオがおみせの場所になりました。これで音響上もバッチリ。子どもたちの声が、実際の電波に乗りました。

後日エフエム戸塚からは「小さい子も上手にやれていました。子どもたちは楽しそうでした」という感想が寄せられました。

エフエム戸塚では、ほかにアンケートを行いました。（右の写真）

アンケートでは「エフエム戸塚を聴いたことはありますか」「よく聴く番組は」「どのような情報や番組を発信してほしいですか」などの質問がありました。アンケートを行っていたのは、“はろ～わ～く”によるお仕事体験の子どもたちです。



ここで屋外に出てみましょう。

▼ 《14》 綿菓子屋さん

昇降口前にオープンしたのが綿菓子屋さんです。

“とつかのおもちゃ箱”でも綿菓子屋さんは大人気で行列ができていました。なお、ここでの売上は“とつかのおもちゃ箱”実行委員会へ寄付しました。

綿菓子を作っているのは“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”でアシスタントとして活動している学生さんです。



綿菓子屋さんからは「わたあめをつくっていて、わたあめまみれになっていたら、ハイチュウをくれた子がいて、嬉しかった。できたわたあめをみて、『おおき〜い』と喜んでくれる子やお仕事かたのしいって連続でお仕事をしてくれる子、うれしそうなお顔やたのしそうなお顔がたくさん見られて、嬉しかった」というエピソード・感想が寄せられました。

#### ▼《15》わくわくサポート隊大工体験：川上地区連合町内会 わくわくサポート隊

綿菓子屋さんの脇では、おじさんたちが日曜大工のようなことをやっています。インタビューしてみましょう。

わくわくサポート隊は、地域のボランティアで、いろんな活動をしています。学校だけでなく、地域のいろんな場所で活動しています。きょうは子どもに大工体験をしてもらいます。

と答えていただきました。もう少し詳しいインフォメーションを“ひよこトナカイ”からいただいた資料でご紹介しましょう。

川上連合町内会の組織として（1）お年寄の支援（2）子どもとのふれあい（3）公園の環境づくりの3つの活動を続け、5年目を迎えました。

今回の大工体験は“川上小はまっ子”では26回目を迎えます。子どもたちに残材を利用して、ノコギリとカナヅチと釘を使うことで、自由に物づくりと創造性を学ぶと共に、地域の大人とのふれあいを深める事を目的にしています。



私（山口）が取材した時には、たまたまでしょうが、お子さんの姿はありませんでした。これについては「いつもは屋内でやっていることも関係しているかもしれません」と話されました。

▼《16》原始の店（火起こしの村）：川上地区青少年指導員／スポーツ推進員

こちらは花炭を作るおみせです。花炭とは、松ぼっくりなどの木の実や小枝や葉っぱなどの素材をそのままの形で炭化させて炭にしたものです。



インタビューしてみましょう。

翌日（12月11日）開催の“児童文化作品展”へ出展するために作っています。

毎年“児童文化作品展”へ出展しており、川上小学校の校庭をお借りしています。今回は“とつかのおもちゃ箱”と重なったことから、“だがしや楽校”のおみせとして参加しました。

炭火では、五平餅も焼きます。



また、空いた時間に火起こし体験をしてもらっています。



私たちは、青少年指導員です。青少年指導員は、横浜市からの委託によりボランティアで活動しています。戸塚区の中でも地区毎に分かれており、きょうは戸塚区でも川上地区の青少年指導員が集まっています。それにスポーツ推進員（前：体育指導員）にも手伝ってもらっています。

ということは、作品展への出展のための作品(花炭)つくりと“とつかのおもちゃ箱”がうまくつながったということになります。これはこれで、とても良いことだと思います。

現代は、山形もそうですが、週末ともなりますと、イベントが目白押しです。それも似たようなイベントがあちこちで開催されると、どこへ行ったら良いか迷うほどです。だから私も、「これとこれとが一緒になって協働して開催すれば、もっと素晴らしいものになるのだが・・・」と思うことがあります。

そこで考えるのは、作品づくりも大切ですが、作品づくりはあくまで手段であり、作品づくりを通しての、子どもたちと地域の人たちとの交流・コミュニケーション、あるいは子どもたち同士の交流・コミュニケーションが重要であることです。そういう意味で、子どもたちに火起こしの体験をしてもらったことは、さらに良かったと思います。懸命に火起こしする子どもたちを後押しするスタッフの人たち。そこにコミュニケーションが生まれていました。



#### ▼《17》フットサルでボーリング：FC e - v o ～フットサルが世界をつなぐ～

ちょうど私(山口)が取材を始めようとしたら、2チームによる対戦が始まるころでした。1チーム3人の選手たちは整列して、審判からルール説明を受け、試合前の挨拶を交わし、いよいよ対戦開始です。



ボールを蹴って、倒したピンの数と点数を加算して、勝敗を競います。ゲームでは、お手伝いのお子さんが、倒したピンを確認しながら点数を告げていました。



スタッフの人にインタビューしましょう。私が「山形から来ました」と言いますと、「エッ!、

自分は白鷹町出身です。山形のどちらから」「米沢です」「じゃあ、同じ置賜ですね。ビックリしました」という展開になりました。毎回思うのですが、人との出会いの偶然にはビックリさせられます。

“F C e - v o”は、フットサルを通じて国際交流をしようという団体です。

横浜NGO連絡会（YNN）でのボランティア募集で集まった人たちの中で、フットサルに興味のある人が多かったことから、その人たちで、昨年（2010年）に設立したばかりの新しい団体です。ですから、元々は国際交流で集まった人たちです。

月1回、フットサルコートに集まって、横浜市に住む海外の人たちといっしょにフットサルをしながら交流しています。

活動をしている中で、横浜市の教育委員会の方から「“とつかのおもちゃ箱”という企画があるので参加してみたら」という話をいただきました。それできょうの参加となりました。

今年（2010年）の夏にも横浜市教育委員会から「サッカー教室を開いてくれないか」という話をいただき、ここ川上小学校にお邪魔していました。そのつながりで、今回も呼んでいただきました。

メンバーは二十数名います。きょうはこの内4名で参加しています。

“F C e - v o”のメンバーに、老若男女関係ありません。

自分も保育士の専門学校に通っている経緯もあって、子どもたちとの交流企画もやっています。「子どもたちには海外の人との交流も体験してもらいたい」という思いもありますので、将来は“F C e - v o J r”をつくりたいです。

白鷹町出身の人が横浜で活躍されている様子を拝見しますと、非常に嬉しいのですが、チョッピリ複雑でもあります。白鷹と横浜をつなぐことはできないものか・・・と考え込んでしまいました。でも、ここで出会えて、私（山口）も本当に良かったです。

後日「最後、片づけで子どもたちが全員手伝ってくれました」というエピソードを寄せてくださいました。

お昼が近づいてきました。美味しいものがいっぱいのおみせが並んでいる家庭科室へ行ってみましょう。家庭科室は、体育館棟の1階です。

#### ▼《18》しなの食堂：品濃小学校PTA





今回で3年目という“しなの食堂”。“とつかのおもちゃ箱”ではすっかりお馴染みのおみせとなりました。振り返りの会での感想です。

今回初めて川上小学校への遠征でしたが、“しなの食堂”名物のカレーは、手作りにこだわりました。

それで、子どもたちが嬉しそうに「美味しい」と言ってくれたのが励みになりました。中には3杯（内2杯は大盛り）もおかわりしたお子さんもいました。

おにぎりも完売しました。

私も田中靖子さんといっしょに食べましたが、子どもたちが喜びそうな見事な味付けに感心しながらいただきました。美味しいです。

だから、子どもたちにも人気があるのでしょう。

後日「開店前（10時ごろ）から、楽しみにして来てくれた子どもたちがたくさんいました。みんな元気な子どもたち、『じゃあ、またくるねっ』とウキウキな様子が伝わって来ました。良い笑顔がなにより嬉しかったです」という感想も寄せられました。



#### ▼《19》おでん屋川上P：川上小学校PTA

“とつかのおもちゃ箱”初参加の川上小学校PTAは“おでん”のおみせです。

快晴の横浜・戸塚ですが、寒い冬は“おでん”が最高です。“おでん”も田中靖子さんといっしょにいただきました。



仕入れ数を決めるのが難しかったそうですが、200食完売です。特に後半、懸命にPRしたこともあって、「そんなにがんばっているなら買しましょう」というお客さんたちがいて、完売できました。

また、初参加ということで、品濃小学校PTAの人たちからアドバイスをいただいたそうです。一方、品濃小学校PTAの人たちは「隣りに川上小学校PTAの人たちがいて心強かった」と言います。これも、地域のつながりです。

▼ 《20》 にこにこコロッケ：東戸塚地区配食サービスの会

なんと「あの平田牧場の三元豚入り！」というコロッケです。平田牧場は、もちろん山形県（酒田市）です。実は昨年、このことを後で気付いたためにお聞きすることができませんでした。というわけで、早速インタビューです。



平田牧場の豚肉を生活クラブで仕入れています。そして、生活クラブの惣菜部で作ったコロッケです。添加物の入っていない美味しく、安心安全のコロッケです。

120個のコロッケは、なんと20～25分で売り切れてしまったそうです。ということは、タイミング良く取材・カメラ撮影ができたことになります。

お手伝いの子どもたちは、コロッケをつぶさないようにトングで挟むのが難しそうでしたが、良い体験になりました。



▼ 《21》 更生保護女性会のパン屋さん：戸塚区更生保護女性会  
昨年が続いての参加です。



地元のパン屋さんで作ったパンを販売していますが、この日しか買うことができない特注のパンです。ちょっと小さめですが、お買い求めいただきやすいパンにしました。

とつかのおもちゃ箱＝戸塚区更生保護女性会＝パン屋さんという、ここからも地域のつながりを感じます。ビスケットも販売していました。

ここで、お仕事体験中の子どもたちをご紹介します。プラカードを持って、おみせのPRをして回る子どもたちです。



次は、家庭科室の奥、理科室を覗いてみましょう。

▼《22》せっけんねんど ～クリスマスのかざりをつくろう！～

: アート&ヒーリング ramo de flores (ラモ デ フローレス)

昨年タップリお話をうかがった福田さんのおみせです。



今年は、石鹼の素地を粘土細工のようにして形を作り、色を付けて、クリスマスの飾りにするおみせです。同じ色でも、塗り方で色が違って、とても美しくなる・・・ことは、福田さんも、ここで発見したそうです。すべての色を混ぜると、どんな色になるのか、という“実験”にも挑戦していました。



1年前は「これから始めます」と紹介された、子どものためのケアアート教室や、絵画教室（アート&ヒーリング ramo de flores<花束>）を開いている福田さんらしい心と

むおみせです。

今回は体育館棟 1階一番奥の理科室だったこともあり、大にぎわいではありませんでしたが、逆にアート&ヒーリングにちょうど良い雰囲気になりました。

福田さんによると、おみせには、途切れることもなく子どもたちが来ました。また、親御さんが子どもに口出し・手出しせず、静かに見守っていたそうで、これも心和むおみせが成せる技かもしれません。印象に残るおみせです。

後日福田さんからは「昨年へ続きの出店で、今回は（とつかのおもちゃ箱）全体をみて楽しむと思っていましたが、お客さんが途切れなかったのが、結局できずにいたので残念！ 場所が昨年（と同じで今回）もブースが少なくてさみしいです。（とつかのおもちゃ箱）全体はオープン前を見て回っただけで、にぎわいがわからなかったです」というコメントが寄せられました。

これについて“ひよこトナカイ”さんからは、2人でおみせを出す予定でしたが、1人が体調の関係で来られなくなってしまい、休む時間がなくなってしまったとのことでした。

「お客さんが途切れなかった」ということで難しいでしょうが、次回は思い切って「ただいまお休み中」にするとか、あらかじめオープン時間を決めて告知するなどしていただき、福田さんにも“とつかのおもちゃ箱”を楽しんでいただければ、と思います。

#### ▼《23》毛玉戦隊マリモンジャー：かにのまえあるき

山形県南陽市で大活躍している“南陽宣隊アルカディオン”（※注1）に対抗する最強のライバルが登場！！かな？？

その名は“毛玉戦隊マリモンジャー”。いかにも強そうで、カッコ良い！！かな？？



早速、メンバー5人に登場してもらいましょう。ジャジャーン！！



アレレ？ これは・・・え〜と、毛糸じゃないの？

いやいや、侮ってはいけません。これでも大真面目なのであります。

横浜市戸塚区に現れた“毛玉戦隊マリモンジャー”。生み出した“かにのまえあるき”のお二人は「毛玉戦隊マリモンジャーは、これから相当流行ります。全国区で間違いなしです」と力強く語り、「山形でも広めてください」と紹介されました。

さあ、それでは、メンバーをご紹介します。（いただいた原文のまま紹介しますが、一部は漢字にして記載します）

### ○マリモブラック

お掃除担当。通称まっくろくろすけ。こわもてだが、実は心優しく力持ち。人がいいため、イエローにいつもいいように使われている。まっくろくろすけのあだ名はイヤだが、なかなか言い出せなくしている。

### ○マリモブルー

メカニック担当。割り箸鉄砲とか、折り紙手裏剣といった数々の役に立たない武器を作り続けている。窓際に追いやられる日も近い。

### ○マリモレッド

マリモンジャーのリーダー。気が小さく意気地無しなので、敵のスイツセンターが来ても、「お願いですから帰ってください」とメールを送っている。

### ○マリモイエロー

マリモンジャーのアイドル。キレイな顔をして腹黒い。遊びに行っている時に、敵が来ても病気を理由に出動しないこともしばしば。

### ○マリモピンク

オペレーター担当。イエローが来てからアイドルの座を奪われた。外に出なくなってから光合成ができず、ますますお肌が荒れてきた。一人だけ眉毛があることを気にしている。

写真にはありませんが、悪役もおります。

### ×スイツセンター

人間が出す雑排水から生まれた環境汚染の悪いヤツ。マリモンジャーにやられても、人間がどんどん生み出すのでキリがない。

いやはや驚きました。早速インタビューしてみましよう。

“かにのまえあるき”は、地域の子どもイベントでボランティアをしています。川上小学校でも活動しており、イベントにも参加していることから、今回お誘いをいただきました。

きょうは毛糸を巻き付けて、それを縛って丸くして、マリモを作ります。

後日「まりもが上手にできた際の、子どもたちの笑



顔が印象に残りました。ほかの地域のボランティアの方と交流し、活動について情報交換できたことも良かったです。たくさん子どもと関わることができ、自分たちにとっても楽しい1日となりました」とエピソードや感想を寄せられました。

※注1：南陽宣隊アルカディオン・・・山形県南陽市のご当地ヒーロー。地元の若者グループが発案しました。

#### ▼《24》理科（りか）ちゃんコーナー：みなみサイエンスチーム

2007年1月に開催された“だがしや楽校全国寄り合い2007 in 横浜”の会場となったのが“フリースペースみなみ”（浦舟複合福祉施設）でした。

その“フリースペースみなみ”は、横浜市南区が整備し、NPO法人教育支援協会が運営しています。“フリースペースみなみ”では、放課後の子どもたちを対象に、いろんな活動を行っていますが、そのひとつがカバゴン先生（阿部進さん）直伝の“おもしろサイエンス”です。

というわけで、“とつかのおもちゃ箱”には初参加ですが、“だがしや楽校”とは深い関係があります。



午前中は、“色のふしぎ”と題して、丸い紙に色を塗り、それをCD盤に貼り、コマのように回した時に、どんな色に見えるか、という実験を、子どもたちにやってもらいました。



また、午後からは、ドライアイスを使っての大実験教室も行われました。ドライアイスを滑らせたり、ドライアイスにスプーンを近づけたり、ドライアイスにおはじきを乗せたり、ドライアイスに水滴を垂らしてみたりする実験などを行いました。

実験では、中学生がスタッフとして参加していました。

スタッフの人にインタビューしました。

実験は、だいたい1時間～1時間半で組み立てます。

“はまっ子”でやる時は小学1年～6年が対象になりますが、それはこだわらず、言葉を聞いてわかってくれば就学前のお子さんでも参加できます。

きょうは中学生にスタッフとして参加してもらいましたが、中学生は中学生で発見がありますし、小学1年生の発見もありますので、それを共有できれば良いと思います。

“おもしろサイエンス”は“フリースペースみなみ”では週2回行っています。“川上小学校はまっ子”では月1回、ほかでも月1回行っています。

実験では子どもたちの関わり方を大切にします。今の子どもたちは、人間関係を築けなくなっていますので、ちょっと目を合わせて話を聞く、実験をネタに子どもたちが話をする・話をさせることを意識しながらやっています。きょうの経験が子ども同士の話題になれば良いです。



さらに、後日送られたエピソードや感想では、次のように伝えています。

参加者からは「大人になるまで、こういう実験をしたことがなかったけど、おもしろいですね」と言われました。サイエンスの楽しさを伝えられたと思います。またその行いの中で、私たちも新たな発見をし、楽しかったです。今回、初参加の中学生ボランティアも大活躍でした。

私（山口）もしばらく見入ってしまうほど、楽しい実験でした。ドライアイスの実験など、なかなか体験できるものではありません。参加者の引き込み方も見事でした。これでは、子どもだけでなく、大人も楽しくなります。

中学生にもインタビューしましたが、自らの意志で参加したそうで、楽しそうに取り組んでいました。

ただ、“とつかのおもちゃ箱”として考えますと、1時間30分近い実験は長かったと思います。ここで完結させるのではなく、普段行っている“おもしろサイエンス”につなげる工夫をされた方が良かったのではないかと感じました。

体育館に戻りましょう。いろいろなおみせが並んでいます。

## ▼《25》響レンタモーターズ：ミニオンボーイズ

ラジコンカーのおみせです。

響レンタモーターズは、ラジコン大好きな川上小学校の児童3人と大人1人によって、1年前にできました。店長である小学5年生のお子さんは「ラジコンは、自分の好きなように動かすことができ、思った通りに動くところが好きです」と話してくれました。さらに、2年前からラジ

コンカーが好きになったという小学3年生のお子さんは「操作することが好きです」と話してくれました。



1日で50人以上のお客さんが集まり、とても良い経験になったそうです。

私（山口）が取材していると、プロミスの人たちが見学に来られました。（右の写真）

“だがしや楽校”では、このようなおみせ同士の交流も大事にしたいです。



#### ▼《26》Nゲージの世界：鉄道子ども会

鉄道模型を走らせて、鉄道の世界を楽しむおみせです。“とつかのおもちゃ箱”には3年連続の参加です。



鉄道好きな子どもたちとその親御さんが中心となって昨年（2009年）できた“鉄道こども会”では、鉄道を通じて子どもたちに社会性（友だち付き合いやコミュニケーション）を身に付ける活動をしています。旅行や車両基地見学をしています。

終了後「また参加したいです」というコメントを寄せられました。



▼ 《27》品濃BCのお店：品濃BC（品濃小PTAバドミントンサークル）

“とつかのおもちゃ箱”ではすっかりお馴染みになったおみせのひとつです。

品濃小学校の保護者と卒業生の保護者で構成しているPTAバドミントンサークルの仲間たちとその子どもたちによるおみせです。品濃BCでは、毎週水曜日、品濃小学校の体育館でバドミントンをしています。



おみせでは、シャトルマスコットの販売と制作を行っています。

インタビューしてみますと・・・

販売しているシャトルマスコットは、私たちの手作りです。ひとつのシャトルマスコットを作るのに10～15分です。女の子だけに人気があります。

シャトルマスコットは、バドミントンをやっている人たちの間で流行っています。シャトルマスコットを見て、「何それ可愛い」と思ったら、「これはボサボサになったシャトルで作ったんだよ」と聞いてビックリ。それで広まっていったと思います。



▼ 《28》ゲーム&フリーマーケット屋さん：品濃小学校4年2組

子どもたちが大きな声で元気に呼び込みしているおみせです。

ゲームは輪投げなどができます。



「どうしてこのようなおみせを出すことにしたのですか？」と聞きますと、子どもたちは「盲

導犬のために寄付できるおみせということで、クラスみんなで考えました」という素晴らしい答えが返ってきました。



4年2組は男子15人、女子16人のクラスです。授業で目の見えない人の苦勞の話を聞いて、子どもたちの間で「何かできないか」となり、おみせを出しました。

おみせには募金箱も設置されていました。また、会場内（校内）をまわって、募金活動も行いました。

後日、次のようなエピソードを寄せられました。

商品を買ってくれたとき、「ありがとう」「がんばって」と言ってくれた人が何人もいました。



#### ▼《29》たのしいぼうくじのおみせ：品濃小学校3年生



おみせの子どもたちにインタビューしましょう。

棒を引いて、出たその色の商品がもらえるおみせです。商品は、本・筆箱・ぬいぐるみ・ティッシュケース・マグカップ・フィギアなどです。

男の子3人によるおみせです。3人は1年生の時からずっと仲良しです。ぼうくじのおみせは1人の男の子が考えました。商品は、お家で要らなくなったものなどを集めて揃えました。

3年生とは思えない対応ぶりに、私（山口）は感心するばかりでした。

私が山形から来たことを紹介すると、目を丸くした子どもたち。ただし、後ろで子どもたちを見守っていたおとうさんに「山形県がどこにあるか教えてください」とお願いしました。ハイ！



後日、次のようなエピソードや感想を寄せられました。

子どもたちが「またやってみたい(お店として)と思うことができた」と言っていました。

子どもたちなりに分担を決め、最後まで頑張る姿はとてもよかったです。きっと良い経験になったことでしょう。「宣伝」は結構大切なものだと思います。



▼《30》紙ヒコウキ・ワークショップ：西原良典さん  
紙ひこうき名人・西原さんのおみせです。



西原さんと紙ひこうきとの出会いは、50歳の時に転職した際、新たに勤めた会社の社長さんが紙ひこうきをやっていたからです。その会社では、フィリピンとタイでそれぞれ3年間勤務しましたが、現地の人たちに、日本の良さ・日本文化を伝えるため、紙ひこうきを教えました。紙ひこうきを通じて、従業員や従業員のお子さんをはじめ、現地の人・海外の人と仲良くなることができ、日本に帰っても、引き続きやろうと思いました。



西原さんの話です。

現在は定年を迎えましたが、とつか区民活動センターから、子どもたちを相手にする行事があることを紹介していただき、“とつかのおもちゃ箱”に参加しました。

「日本紙飛行機協会として、日本で紙ひこうきの世界大会を開くのが夢です」と語る西原さんは、こども放送局の収録では、インタビューの後、滞空時間の世界最長記録（28秒）を持っているスカイキングの折り方を紹介していました。

紙ひこうきは、僅か1枚の紙で出来るという、日本が誇る最高の遊び文化です。

#### ▼《31》ミニョンのおしゃれショップ：++mignon++（ミニョン）

川上小学校と言えば“ミニョンのおしゃれショップ”。もはや“とつかのおもちゃ箱”には欠かせないおみせとなりました。



延べで150人、リピーターのお子さんがいましたので、130人のお子さんがおみせに来られたと思います・・・という報告が、おみせからありました。とにかく、多くの子どもたちが夢中になっていました。



2年前の“とつかのおもちゃ箱”で初めて出店します。それは、子どもたちが1年生の時でした。それが大盛り上がりとなり、おかあさんたち（川上小はまっ子の有志）はハンドメイドサークル“ミニョン”を結成し、活動を始めます。おかあさんたちの本気度は並大抵ではありません。その結果、1年前の“とつかのおもちゃ箱”も大成功！

さらにその後は、明治学院大学の学園祭や国際フェスタでもおみせを出すほどになりました。今回も、楽しいパッチンピンのおみせとなりました



それにしても、3年生になった女の子さんたちの愛想の良さに、私（山口）はノックアウト！私が山形から来たことを紹介すると、女の子さんたちは拍手してくれました。さらに、“だがしや楽校”が山形で生まれたことを紹介すると、またまた拍手してくれました。

もちろん、山形がどこにあるかも、すぐに教えてくださいました。

子どもたちにとって、おみせを出すという経験が、いかに成長の糧になっているか、ヒシヒシと感じた瞬間でした。

“とつかのおもちゃ箱・だがしや楽校”は、子どもたちにとって、見事な社会教育の場になっていたのです。素晴らしいです。



#### ▼ 《32》 手作りの店『マハロ』：川上小学校PTA



シュシュや入れ物を販売しています。みんな、おかあさんたちの手作りです。「子どもたちが喜ぶと思い、夜なべして作った」そうです。見事に完売しました。



川上小学校PTAとしては“とつかのおもちや箱”初参加でしたが、心がこもったおみせであると感じました。

### ▼《33》こども放送局：つながるこども放送局

これも“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”を拠点にした活動です。



昨年（2010年）の10月から原則水曜日に活動しています。校長先生や地域の人へのインタビューだけでなく、地域のイベントなどにも参加して、地域とのつながりを深めています。

最近では、2011年10月開催の“だがしや楽校 in よこはま国際フェスタ 2011”にて出店・活動を行いました。



この日の“とつかのおもちや箱”でも、各おみせに出向いて取材活動を行いました。取材では、子どもたちがインタビュー・カメラ・タイムキーパー・カンペ・音声という役割を分担しました。今回は、3つのおみせ（しなの食堂・学童あそびばランド・紙ヒコウキ）をインタビューしました。

こういう体験は、子どもたちにとって、社会教育の場でもあり、地域を学ぶ場でもあり、「メディアとは」「伝えることとは」を学ぶ場でもあり、私（山口）から見ても、とても良いことかと思

います。



ただし、慎重な活動も求められます。例えば、カンペの使い方によっては、あらかじめ決めていたシナリオ通りのインタビューになってしまう可能性があること、予想外の答えに対して臨機応変に対応できなくなってしまう可能性があることが考えられます。メディアというのは、一歩間違えますと、大変なことになってしまいます。



実際にはどうだったでしょうか。

紙ヒコウキの西原さんへの取材では、型通りのインタビューという印象でしたが、インタビューの後、西原さんが、滞空時間の長くなる紙ヒコウキ（スカイキング）の折り方をじっくり紹介していたシーンまで収録していました。

“だがしや楽校”では、子どもたちの自由な発想・柔軟な対応を大切にする場であります。その“だがしや楽校”の心を大切にすれば、つながるこども放送局の活動は、さらに素晴らしいものになるでしょう。

後日、「川上小学校で普段は活動しているため、他の小学校の子が参加し、初めて手に取るマイクやビデオカメラに目を輝かせている姿が新鮮でした。1から10まで出店における準備を全て用意していただき、気持ち良く活動することができました。ありがとうございました」というコメントを寄せられました。



あと、ひとつ気になったのは、スタッフと思われる人の中に、収録中ポケットに手を入れている人がおられたことです。メディアに携わる場合、このようなことに対しては、より一層気を引き締めることが求められます。

▼ 《34》 バルーンサンタ：バルーンサンタ（Oota さん）



生命保険会社にお勤めの Oota さん。バルーンアートは独学でおぼえたそうです。

Oota さん、私（山口）との談義の中で「独学というのは、やる気を出すと強いんです」という名言を吐きます。すごい！！

しかし、おみせの方はお忙しく、私の顔を見るなり「休むヒマありません」と悲鳴をあげていました。

バルーンアートは簡単なものと、お子さんにも作ることができます。プレゼント用のバルーンアートのほかに、いっしょに作るバルーンアートがあると、そんなに苦労することもなかったのかもしれない。

ちなみに、プレゼント用のバルーンアートであるサンタクロースは、8つのバルーンアートを使うそうです。こうなると、バルーンアートもまさに<芸術>です。



それにしても、Oota さんの姿を見ますと、「仕事があるから地域活動はできない」というのは言い訳にしかすぎないと感じます。今の時代、仕事盛りの人でも、一人ひとりが自分の生き方を考える時であります。

Oota さんからは「午前中、ずっとお店番に来てくれた子どもがいて助かりました」という感想が寄せられました。

ここまで体育館を中心に見てきました。続いて、校舎3階に行ってみましょう。生活室には4つのおみせが開かれています。



▼ 《35》音のおもちゃばこ：とつか♪おんがくっ子広場

ヒモを引っ張ると音が出る紙コップ、鈴を付けた輪っか、カスタネットなど手作り楽器を作っているおみせです。



“とつか♪おんがくっ子広場”は、戸塚区と協働で行っている区民企画運営講座をはじめ、音楽のワークショップを開催しています。子どもから大人までみんなで楽しむ音楽の広場づくり活動を展開しています。

子どもたちだけでなく、楽器を親子で作っては鳴らす風景が見られ、とても良い雰囲気でした。

▼ 《36》カード屋さん：K. Ogu くん



デュエルマスターズ、遊戯王などのカードを販売しています。振り返りの会で、50人のお客さんがあったことで、おみせを出したOgu君は、終わった後、舞い上がって喜んでいたことが紹介されました。

▼ 《37》手作りおもちゃ広場：とつか盛り上げ隊

2年前の“とつかのおもちゃ箱”では“とつかかるたを広める会”として“とつかかるた”のおみせを出しました。その後、活動はパワーアップし、“とつか盛り上げ隊”として、戸塚の歴史に関する活動（講演会やスタンプラリー）、ウォーキングなどの活動を行っています。

手作りおもちゃも活動のひとつです。元設計の仕事をしてきたことを活かし、図面を引いておもちゃを設計し、おもちゃを作っています。



この日は、スマイル人形“じしん過剰君”、おとととオットセイ（やじろべい）、ビックリ箱などのおもちゃを紹介しています。

おみせでは、とつかかるたも販売していました。

手作りとは言え、精巧なおもちゃは、感動モノです。まさに『自分みせ』です。

#### ▼《38》夢売り屋台：石川博美さん

戸塚駅西口商店街にある大型コピーのお店・石川さんは昨年が続いての出店です。



石川さんは私（山口）のインタビューに「今年は種類を増やして、50円のブレスレットやジュースなどの飲み物も販売しました」と語ってくださいました。

石川さんのおみせと言えば“三角くじ”です。今年も“50円の夢くじ”が登場しました。

“くじ”のヒントになったのが“横浜Y.Y.150円商店街”です。

私（山口）が取材した時には、数人の男のお子さんが一生懸命になって、手伝いをしていました。石川さんも終わった後で「たくさん子どもたちが手伝ってくれたことが嬉しかったです」と感想を寄せています。



体育館からダンス音楽が聞こえてきました。覗いてみましょう。

▼ 《39》 キッズダンサーSHOW：MKY-7（エム ケー ワイ セブン）

2人のお子さんが格好良くダンスしています。写真は帽子を放り投げ、ポーズを取っている瞬間です。決まっています。

MKY-7は、戸塚の貸しスタジオハーツで、子どもから大人まで年齢を問わず、毎週ダンスレッスンを開いています。

後日「音響など、踊れる環境を提供していただいて、子どもたちのためになったと思います。ありがとうございます。子どもたちも楽しんでいました」という感想を寄せています。



最後に校舎3階、生活室の隣り、学習室に入ってみましょう。

▼ 《40》 だがしやしなの：だがしやしなの



2年前の“とつかのおもちゃ箱 2009”をきっかけのひとつに、品濃小学校・元PTA有志のおかあさんたちが拠点型の駄菓子屋さんとして、月2回、東戸塚の常盤商店前でオープンしているのが“だがしやしなの”です。

“だがしやのおばちゃん”として、「駄菓子の販売だけでなく、地域の人たちが交流できる場としてお役に立てれば」という思いで開いている“だがしやしなの”。



この日は、“とつかのおもちゃ箱”会場が一番奥、校舎3階・学習室でのオープンです。

オープン前には「じっくり構えてやります」と語っていましたが、オープン後は、品濃小学校のお子さんを中心に常連のお子さんが多数おみせにやってきたほか、川上小学校の子どもたちも多数おみせに来ましたので、大にぎわいとなりました。

振り返りの会では、次のようなエピソードが紹介されました。

川上小学校のお子さんですが、『2とぷれ』しか持っていないのに『3とぷれ』のものがどうしてもほしいということで、機転を利かしたYさんは、そのお子さんにおみせのお手伝いをしてもらいました。

柔軟な対応されたこと、お金だけがすべてでないことを子どもに体験させたこと、言い換えますと『物々交換』って『モノ』だけではないことを子どもに伝えていたことを考えますと、グッドなエピソードです。

また、次のような感想も寄せられました。

何回もお手伝いをしてくれる子どもたちが「だって楽しいんだもん」と言ってくれたのが嬉しかったです。

ここまで40のおみせを紹介してきました。気が付いてみますと“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”のおしまいの時刻・午後3時が近づいてきました。アツと言う間の5時間です。

さて、これで全部のおみせを見て回ることが出来たでしょうか。確認します。

結果、残念ながら、1つだけ拝見することが出来なかったおみせがありました。それは紙芝居のおみせでした。“だがしやしなの”と同じ学習室でのおみせでしたが、午前中だけだったこともあり、見逃してしまいました。

そこで、この報告では“ひよこトナカイ”さんからいただいた資料により、紙芝居のおみせをご紹介します。ただし、映像はありません。

#### ▼《41》てんとうむし（紙芝居）：てんとうむし

“てんとうむし”は“とつかのおもちゃ箱”初参加です。

“てんとうむし”は、子どもたちに読書することの面白さ・楽しさを知ってもらいたいため、メンバー4人で活動しています。活動は6年目だそうで、この日の“とつかのおもちゃ箱”では自分で本が選べ、読めるようになってもらいたいという思いを込めて、紙芝居を口演しました。

後日“てんとうむし”から次のようなエピソードや感想が送られてきました。

駄菓子を買いに来る子はいても、紙芝居に興味をもってくれず、困ってしまいましたが、4人の女の子に聞いてって頼むと、その子たちにつられて小さい子が何人か聞いてくれてよかった。また紙芝居をめざして来てくれた親子もいて嬉しかったです。

紙芝居は場所が難しいです(人を集めるだけの技術もないし)。少しうるさくても、マイクがあるならイスがあり、座っている場所の方がよいか。今回は時間を決めず、子どもが少なくても聞いてくれるときにやりました。

どうやら集客に苦労されたようです。実際に拝見していませんので、本来ならコメントできないのですが、寄せられた感想から、私（山口）なりに感じたことを申し上げます。

紙芝居で人（子どもたち）を集めたいのなら、拍子木を使って呼び込むくらいの発想はしていただきたいと思います。

それから、紙芝居で「イスに座る」という発想は（あくまで私・山口の考えですが）あり得ません。屋内でやるなら、シートとかゴザを敷いて、そこに自由に座ってもらうことです。「イスに座る」ということは、紙芝居を見る「場所」「人数」が固定されてしまうことになります。

紙芝居とは「見せるもの」ではなく「見に来てもらうもの」です。そのための工夫が必要です。

紙芝居は無限の可能性を持っています。私（山口）は、『自分みせ』である“だがしや楽校”での遊びとして紙芝居を提案しています。

これで41すべてのおみせをご紹介しました。

こうして紹介していきますと、紙芝居を除いて、よくぞ40のおみせを見て回ることができたのだと、自分で感心してしまいました。でも、40のおみせを見て回るのに、苦勞したわけではありません。楽しい時間を過ごすことができたのであります。

午後3時から撤収作業が行われ、午後4時30分すぎから、先程からご紹介している振り返りの会が家庭科室で始まりまして。ここで出された発言を、個々のおみせ紹介の中でお伝えしたわけです。



### 《振り返り》

はじめに申し上げましたが、ここでの“振り返り”では“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”全体を通して感じたことを中心にご紹介します。

今回の“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”の参加人数ですが、後日“ひよこトナカイ”さんから送られてきた資料によりますと、おみせを出した人・スタッフの人も含めて（私・山口も含めて）654人でした。これは受付表に記入した人数ですので、実際には800人ほどの参加者があったものと推計されるそうです。とにかく、たくさんの方が参加されました。

次に、“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”から寄せられたエピソードや感想を中心に、ここまでご紹介していなかった感想などをご紹介します。中学生ボランティアスタッフの感想や個々のおみせの感想もありますが、全体的な感想もありますので、ここでまとめてご紹介いたします。

○視聴覚室は、大人も子どももゆったりのにんびりピアノを聴きながらとても良い雰囲気でした。“とつかのおもちゃ箱”を初体験の子どもたちが「お仕事とっても楽しい～」と張り切って働い

ていました。

○ピアノをききながら、お茶をして子どもの演奏にききほれました。

○視聴覚室では、ピアノの生演奏の中、お子さんたちとは別に保護者の方たちのゆったりくつろぐ姿が見られました。また、小学生のピアノの演奏も良かったです。

○中学生ボランティアの感想・・・“だがしや楽校”初参加でしたが、こんなに楽しいイベントでびっくりしました。

○中学生ボランティアの感想・・・いろいろなお店が出ていて、自分が手伝ったことでもらった「とふれ」を使って買い物をしたり、ゲームをするのが楽しかった。

○中学生ボランティアの感想・・・ベーゴマのおじさんと対決したら、一人だけどうしても勝てない人がいて、悔しかった。来年は勝ちたい。

○サイエンスを教えるのが楽しかった。自分も実験に参加できて良かった。すごくエキサイティングしてしまいました。

○はろ～わ～くのお仕事で、“看板持ち”が楽しかったらしく、はろ～わ～くを(2回目からは)通さず、自主的に宣伝をしてくれた男の子がいました。

○昨年のおもちゃ箱のときの“とふれ”を取っておいて、今年の“とふれ”を来年のために取っておく貯金をする女の子がいました。

○働いて稼いだ“とふれ”で「何か買ってあげる」と声をかけてくれた女の子がいました。

○何回も働いて買ったおもちゃを受付にみせに来てくれた子どもがたくさんいました。

○迷子の小さい子をお母さんのところへ連れて行ってくれる男の子がいました。とにかくみんな楽しそうな笑顔でした。

○“とつかのおもちゃ箱”は“わくわくディ”の時と比べても、人がとてもたくさん来て、はろ～わ～くで子どもたちを捌くのが大変でした。あの人数を捌けたのは今後のためになると思いました。またこういった人がたくさんくるイベントに参加したいです。

○初めて参加させていただきましたが、子どもたちが楽しそうで、見ているだけで幸せな気持ちになれました。スタッフの皆様ありがとうございました。

○PTAの役員皆で準備をしましたが、各々の得意分野を発揮して、メンバーの新たな一面を知ることでもでき、有意義な参加となりました。お手伝いに入ってくれた子どもたちは、皆きちんと

「売り子」をしてきてとてもよかったです。

○田中靖子さん・・・大人同士のつなぎ役に努めました。新たな出会いあり。

「視聴覚室の雰囲気良かった」という感想が多くみられます。ピアノ生演奏の力はすごいです。

中学生からの感想も感激です。成長しても「来年は勝ちたい」という子供心はいつまでも持ち続けていただきたいと思います。

感想では、ほかに「ダンスの発表の時の音楽がちょっと大きすぎ」とか「受付がもう少し目立つ所にしたほうがいいみたい」というのもありました。これは、会場の関係で難しい課題ではありますが、私（山口）がいつも申し上げるのは、『課題とは財産』です。この大切な財産を参加者みんなで共有することです。共有するとは、主催である“とつかのおもちゃ箱実行委員会”だけでなく、参加者みんなで「次回はどうすれば良いか」考えることです。

それでは最後に、私（山口）の全体を通しての感想をご紹介します。2つあります。

◎横浜・戸塚という地域が「ひとつにつながっている」と感じました。

これは振り返りの会でも申し上げたことです。

事前に“ひよこトナカイ”さんからいただいた情報を拝見し、これまでにないたくさんのおみせが参加していること、おみせの内容・参加者の顔ぶれも千差万別であったことから、ひとつにまとまるのか、收拾がつくのか、ちょっと心配になりました。

ところが、実際におみせをまわって、インタビューしたり、談義したりしていく内に、すべてのおみせが何らかの形でつながっていることがわかってきました。それは“川上小学校はまっ子ふれあいスクール”や“とつか区民活動センター”などによるつながりですが、本当に素晴らしいと感じました。

当日までは「ちょっと心配」していたこともあって、このつながり方は本当に感動的でした。

戸塚はひとつです。このつながりがあれば、来年の“とつかのおもちゃ箱”も成功します。

◎ひとつひとつのおみせから感じるものがたくさんありました

この報告では、実際に拝見することができなかった紙芝居のおみせを含め、41のおみせをすべてご紹介しました。ところで、1つのおみせを紹介するのに1ページ以上を費やすおみせがたくさんありました。結果、この報告は、こんなに重くなってしまいました。それだけひとつひとつのおみせから感じるものがたくさんあったのです。

そんなたくさんのおみせが集まった“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”が、いかにすごい集いだっただか、あとは説明の必要はありません。

“だがしや楽校”は、「なんでもあり」「やり方自由」です。そこで私（山口）が皆様からよく言われるのは「そんな“だがしや楽校”を説明するのは大変でしょう」です。でも、私は自信を持って“だがしや楽校”を説明することができます。

今年（2011年）の“だがしや楽校”。最も大きな出来事のひとつに“未来を築く子育てプロジェクト”（主催：未来を築く子育てプロジェクト実行委員会・委員長：堀田力氏）の“子育て支援活動”部門に於いて、グランプリ（日本一）である“未来大賞”と“厚生労働大臣賞”の受賞があります。この受賞の大きな要因は、“だがしや楽校”が「型枠にはまらない」「融通無碍」だからです。

今回の“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”は、そんな“だがしや楽校”をまさに象徴するものでした。一看すると「なにがなんだかわからない」イベントでした。しかし、そこに「戸塚」という地域を見ることができました。これが“だがしや楽校”です。

振り返りの会で私（山口）は、現在（2011年12月18日時点）の山形・米沢の現状を申し上げました。米沢市には、福島県から3800人を超える避難者が来られています。この数字は、米沢市に住んでいる24人に1人が福島県からの人になる、という計算です。大変な数字です。

福島県からの人たちは、先がまったく見えないまま、避難先で生活しています。私も微力ながら支援活動を行っています。

そこで思うのは、あまりにも大規模な災害であり、過去に経験したこともない重大な事故に対して、これまでのような復興・復旧・支援で良いのか、であります。“だがしや楽校”ではありませんが、発想の転換が必要だと思うのです。

なぜなら、これまでの仕組みや枠組みでは、到底対処できないと思うからです。現実的に「復興は進んでいない」とする見方が圧倒的に多いです。

東日本大震災からの復興には“だがしや楽校”的発想の転換・考え方、そして行動・実行が求められているように感じます。今回の“とつかのおもちゃ箱 2011・だがしや楽校”は、そのヒントを示しているようにも感じます。

毎日のことながら、“ひよこトナカイ”さんをはじめ戸塚の皆様には大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。

企画・制作・編集・文責  
山口充夫  
だがしや楽校コーディネーター